

令和 2 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 16		学校名	県立石岡特別支援学校								学校長名	村山 亮					
教 頭 名	坪松 久美子				大木 勉				事務長名	酒井 隆彦								
教職員数	教諭	69	養護教諭	2	栄養教諭	1	常勤講師	11	非常勤講師	4	実習助手	2	事務職員	3	技術職員等	8	計	104
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数		
	幼稚部	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
	小学部	9	5	8	2	8	0	9	5	9	3	8	2	51	17	18		
	中学部	9	4	9	1	12	3	/	/	/	/	/	/	30	8	9		
高等部	14	7	15	7	16	0	/	/	/	/	/	/	45	14	11			

2 目指す学校像

- ◆一人一人の学びを大切にする学校
- ◆安全・安心で互いを大切に思う学校
- ◆地域のよさを大切にする学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
安全・安心で温かな教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内外の定期的な安全点検を計画し、児童生徒が安心して学習や生活できる教育環境の整備に努めている。 ・毎月の「道徳」の目標を設定し、昇降口の液晶ビジョンに掲示するなど、学校全体で計画的・系統的な指導を積み重ねられるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健安全部を中心に、安心・安全な学校生活を送るための校内体制整備及び教育環境の整備を図る必要がある。 ・各部の道徳教育推進係を中心に、特別支援学校（知的障害教育）における道徳教育の授業実践について研究を深める必要がある。
確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・校務用 P C を教職員一人 1 台整備し、液晶ビジョンを各教室・廊下等に配置し、学習支援ツールとして授業での積極的な活用を行い、児童生徒の学びやすさの向上に努めている。 ・各教科（教科等を合わせた指導）の指導及びそれらと関連した自立活動の指導の在り方について、計画的に校内研修を実施し教職員の専門性向上を図れるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務用 P C の効果的な活用を図るため、教職員の I C T 活用指導力の向上に関する校内研修を計画的かつ系統的に実施する必要がある。 ・専門家の助言を得ながら、児童生徒の実態把握のほか、授業デザインに係る教員の専門性を高めるための研究体制を構築し、生活に結び付いた学力の向上を図る必要がある。

地域に根ざした教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と協働した授業づくりを4団体と行った。また学校間交流を近隣の小・中・高等学校4校と行い、地域とのつながりや本校への理解を深めるようにしている。 ・学校公開や文化祭において、本校の地域と連携した取組について情報発信を行い、本校への理解啓発が図れるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進部を中心に、地場産業や地域の人材活用(学校支援サポーター)について検討し、児童生徒の人とかかわる経験を広げていく必要がある。 ・地域資源に関連する社会人講師等の活用により、作業学習等の授業において地域に根ざした学習活動が展開できるようにする必要がある。
地域の特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域内の市教育委員会や学校(園)等との情報交換をすることで、適切な就学ができるようにしている。また、児童生徒支援部と連携した校内支援の充実に努めている。 ・小・中・高等学校等の教職員を対象に、授業デザイン研究部と連携した授業研究会を行い、授業づくりについて本校の教職員と協議する機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域内の市教育委員会をはじめ、幼児教育施設や高等学校等との連携を深めるため、本校の教育活動や地域支援の方向性等について引き続き理解啓発を図る必要がある。 ・地域の特別支援教育に関するニーズの把握に努めるとともに、小・中・高等学校等の教職員とともに学び合い、地域の特別支援教育の充実に図れるようにする必要がある。

4 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 「安全・安心」な教育活動を徹底し、安心して生活できる教育環境の整備に努める。 2 一人一人の児童生徒の学習や生活のしやすさを高め、生活に結び付いた確かな学力の定着を図る。 3 地域の自然や地場産業等を有効活用し、地域に根ざした教育活動を推進する。 4 幼児教育施設や小・中・高等学校等との連携を密にし、地域の特別支援教育の充実に寄与する。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
A 安全・安心で温かな教育環境づくり	<ol style="list-style-type: none"> ①児童生徒が安心して学習や生活できる教育環境の整備 ②全学年での「道徳」の授業を通した相手を思いやる豊かな心の育成
B 一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくり	<ol style="list-style-type: none"> ③ICTを積極的に活用した学習支援の工夫等による生活に結び付いた確かな学力の定着 ④自立活動の充実(専門家と連携した事例検討、教科等の学習との関連)
C 地域資源の有効活用と地域に根ざした教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> ⑤地場産業と共同した授業づくりと地域との交流の推進 ⑥地域の自然や公共施設等を有効活用した健やかな心や体の育成(自然体験や自然散策等)
D センター的機能をいかした地域の特別支援教育の充実	<ol style="list-style-type: none"> ⑦幼児教育施設や小・中・高等学校への巡回相談を通した地域の子供たちへの支援の充実 ⑧学校公開や研修会を通した特別支援教育に関する情報の積極的な発信